



# 燦さん

No.23

ひとひと ●女と男が共に生きる社会をめざして

「燦」とは……

「燦」＝「さん」という言葉には、いろいろな意味が込められています。自ら光を放してかがやく太陽、子どもを産みはぐくむ母親、産業に携わるひとひと。人が人として充実した生活を送るために、いま、さまざまな動きがあります。そのことをより多くの人たちといっしょに考えるために、この情報誌をお届けします。

※より多くの方にご覧いただけるよう、「市報ふじみ野」に掲載します。



おじま まき  
小島 真希さん

## profile

夫と3人の子ども(小学4年生の双子と幼稚園年少)の5人家族。都内で勤務しながら子育て中。

## 地域の応援と制度の利用で働くママ

職場の同僚や家族など周囲のサポートに助けられながら、仕事に子育てに全力投球しています。(小島)

**育児休業中の生活と職場への復帰**  
10年前、妊娠8カ月の時にさいたま市から市内に引っ越してきました。慣れないところでの子育ては不安でした。  
育児休業を1年間取り職場復帰するつもりでいました。双子の子育ては大変でした。外に出る際2人を抱えて階段を降り、同時にベビーカーに乗せなければなりません。外出することもままならず家の中で過ごすことが多かったように思います。  
育児休業が1年になろうとした頃、公立保育園に入れないことが

## 現在のお仕事と子育ての両立の仕方

放課後児童クラブと保育所にお世話になりながら、なんとか働き続けることができています。  
しかし、雨の日や仕事帰りの電車の遅延や仕事の都合などお迎えが間に合わないことも多々あります。その都度近所の方にお願ひし、迎えに行ってもらい、帰るまでお家で預かっていたこともあり大変助かっています。  
子育てをしながら働き続けるには、放課後児童クラブや保育所だけでなく、職場や地域での環境・

孫が生まれ、仕事帰りに立ち寄り、手伝いをして帰宅。疲れないわけではないけれど、楽しくて刺激的です。(朝倉)

## 仕事も家庭も楽しく！自分らしく輝く女性の軌跡

**男性の教員と比べて困難を感じたこと**  
辛いことに男性、女性という区別で苦勞を感じたり、大変だと考えたことはありません。  
駆け出し当時、女性管理職にほとんど出会ったことがなかったのですが、管理職になる自分をイメージしたことはありませんでした。不登校・発達障がいのある子どもたちの役に立ちたい、担任する子どもたちにとって価値ある教師になりたいと願っていました。当時の校長の男女区別なく人材を育成しようとの思いに背中を押され、1年間大学で心理学などを学びました。



あさくら みゆき  
朝倉 美由紀さん

## profile

現ふじみ野市教育委員会学校教育管理監。小学校教諭・教頭・県教育局西部教育事務所主任指導主事・主任管理主事・校長などを経て、平成28年4月から現職。

## 女性であることで苦勞した経験は

この時、まだ子どもが保育園に通っていました。遠方に行く際には、寝かしつけてから夜行バスで現地に向かい、1日視察などを行い、帰りは新幹線で戻るなどの工夫をしていました。  
女性ゆえに大変な苦勞という意識はありませんでした。仕事を持っている以上、誰もが責任を負っているし、より良い仕事をしたと願っていると思います。そのために、時間をかけて学ぶのは当然です。自分の理想のために、工夫することを考えるのも楽しいです。  
子育て時、実家の手助けが難しいわが家、多忙な夫もあてにはできませんでした。しかし大変ということはなく、どうやら乗り切れるのかを考えました。  
隙間の時間を使い、一度に38人分のノートを見るのではなく、1分あれば一人分読めると考えました。5分の仕事を10回できれば、50分の仕事になります。みじん切り時間活用術は、自分に合っていました。子どもたちが風邪をひいたときなどは大変でしたが、夫や友人、職場の同僚などの理解と応援がありました。  
また、2人目が生まれ間もない頃には、かつての教え子のお母さんが夕食のおかずを届けてくださったこともありました。近所の仲良し家族

## これからの女性へのエール

例えば、私の場合は「仕事か家庭」ではなく、「仕事も家庭も」と欲張ってきました。私は恵まれた環境にあったのだと思いますが、性別等や状況によって自分の活動の幅を決めってしまう必要はないと思います。立場が違えば見える景色も違います。望みの山に登らなかつたとしても、どんな山に登っても、この山からはこんな眺めがあったのかという発見を楽しんでみたいです。  
何があっても、面白がって取り組むほうが、自分も周りも楽しいのではないのでしょうか。

協力が大きいと思います。特に職場での産前産後休暇や育児休業が充実していること、周りに一緒に子育てに協力・応援してくれる方々がいることが、私にとって大変大きなことです。もちろん夫の協力も含めてのことです。

## 編集後記

普段は、「ふじみ野市男女共同参画をすすめる市民の会」で活動しています。男性も女性も互いを尊重し、自分らしく生きることの出来る社会づくりを目指しています。今回、働く素敵な女性2人にインタビューをさせていただきました。勇気や希望の糸口になればと思います。

## 企画・編集

ふじみ野市女性情報誌「燦」編集委員  
大河内 玲子  
村田 紀子



取材風景



朝倉さんが平成27年度まで校長を務めた上野台小学校